

今年度の特記事項

1. 「3か年事業計画」に関しては、結果的に概ね75%以上の達成率の評価に至っているが、定員充足率は目標を大きく下回った。暫定定員設定に関しては算定にあたり前々年度より引き続き2022年度も新型コロナウイルス感染症による入所措置等の減少が考慮され、除外して計算できることが決定しているが、入所世帯確保が喫緊の課題となる。新規事業の開始等一部自治体と協議を継続中の事案等については、次期計画において引き続き達成率100%を目指して取り組んでいく。
2. 2022年度の利用状況はコロナ禍の影響もあり、前年より定員充足率が約7.5%減の81%となった。都内同種の施設の半数近くが暫定定員である状況の中、他県からの受け入れを行うなどしたが、年間目標の充足率90%以上には至らなかった。利用世帯数は、年間27世帯あり、例年同様にDV被害者がおよそ9割に近い状況であった。
3. 利用者サービスの向上のため、毎週平日月・火・水・金曜日の市内各所への送迎支援は、年間790件の利用があり、前年より75%の増加となった。利用理由は買い物で約45%、次いで通院が約22%、駅への送迎が約14%となっている。
4. 2019年10月に発生した大型台風の影響による網代地区小学生の迂回路での登校負担の緩和のためあきる野市がバス送迎支援を11月より開始し、利用児童の過半数に及ぶきずな児童の諸手続きのアナウンス、登校時の見守り等を市と連携し行った。また、「どんど焼き」や防災訓練を縮小しての開催等地元自治会と協働、連携した。
5. 昨年度までコロナ感染予防のため実施を自粛していたが、関係機関等との情報共有及び相互交流による施設理解の促進を目的とする運営協議会は、今年度は7月と3月に無事実施することができた。
6. 市内唯一の社会的養護関係施設であることにより、所在市であるあきる野の要保護児童対策地域協議会代表者会議のメンバーとして今年度より職員代表が定例会議に出席している。
7. 緊急一時保護については、17機関と委託契約を結び、4機関の利用だったが、前年より約482%増加の延べ人員328名が利用した。
8. 前年度より継続し新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みつつ、原則職員を対象とするスクリーニングのためのPCR検査を「あきる野市内高齢者社会福祉施設・事業所のPCR検査事業」で1回、施設独自に7回、計8回延べ165名に実施し1名の陽性者を検出した。また利用者については発熱等の場合嘱託医によるオンライン診療につなぎ職員が処方薬の受け取りや検体の提出を代行するなどし延べ46名がPCR検査を受検し、27名の陽性者を検出した他みなし陽性者が1名であった。10月には利用者6世帯16名、職員1名が家庭内感染、1名が利用者の医療機関への車での通院送迎時の感染疑いにより同時期に発症し、施設内学童・乳幼児保育を休止とした他利用者の館内利用・動線を制限し感染拡大の収束に努め、制限開始から20日後に事業の通常運営を再開した。